

地域医療連携室たより

No.16

信頼と融和で創るよい医療

安全・安心・信頼される公正な医療の実践

発行日

2010年1月22日

医療法人社団松柏会
至誠堂総合病院



地域医療連携室たより
第16号

地域医療と高齢者医療を柱に



内科医

なか じま ゆき ひろ
中 島 幸 裕 医師

- ・東京都生まれ。
- ・1986 山形大学医学部卒
- ・1988 癌研究会附属病院
- ・1989 至誠堂総合病院着任
- ・産業医、学校医（山寺小、中校）
- ・スポーツ医、漢方専門医など

インфекションコントロールドクターを目指して

12月3日(木)、お昼休みの時間を利用して当院、リハビリ室にて全職員学習会が開催されました。「感染防止対策について～多剤耐性菌について」講師は中島幸裕医師。

「多剤耐性菌とは」に始まり、発生経路、耐性菌が検出されたら、院内の隔離及び隔離解除基準、ESBL産生菌とはなど医療従事者が広く知っておかなければならないことなどについての話がなされました。

まもなく、中島医師はICD制度協議会よりインフェクションコントロールドクターの資格が認定される予定です。もちろん、院内の感染防止対策委員会のメンバーです。

【注】インフェクションコントロールドクターとは感染症や感染制御、院内感染対策を専門に取り扱う医療従事者のことを指す。(ウィキペディアより)

山形の地で地域医療を

生まれは東京都。医師を目指したのは高校生のころ。学生時代より地域医療に関心がありました。無医村に行き、医療をおこないたい、困っている人を助けたいという思いがありました。学生時代に当院で実習したことが縁となり、「ここで地域医療ができる」と確信し、入職しました。

消化器内科の研修を癌研究会附属病院で1年半ほど行いました。当院に1989年に就任し、はや、20年以上が経ちました。

当院の医療活動において大事にしたいことは？

当院が元来ずっと大事にしてきた高齢者医療を大事にしたいと考えています。地域から期待もされており、私たちも目指しています。「地域に根ざした医療」、待っている医療ではなく、「地域にでていく医療」をおこないたい、と思っています。

あくまでも、患者さん目線でいい医療を提供したい。地域医療と高齢者医療のために今後がんばっていきたいと考えています。

高齢化社会を支える医療を

日本家庭医療学会にも入っています。日本の今の医学教育では、医師は大部分が専門医としてのトレーニングを受けます。アメリカの医療では専門医と家庭医と分けられています。日本は家庭医を育てる土壌がなかった。しかし、国民のニーズとして家庭医を欲している。生まれてから死ぬまでまるごと一人の人生をみるという意味で大切だと思います。21世紀は高齢化社会です。2025年には日本の高齢化率は27.4%と推計され、高齢化社会を支えるうえで家庭医は大きな役割をはたすといわれています。また、後継者育成としての研修医養成に力をいれている学会でもあります。学生時代から考えてきたことが、結実していると思いました。

最近の医療情勢で考えることは？

小泉内閣等の構造改革により、医療費の抑制に拍車がかかってきたとみています。日頃から医療政策には憤りを感じています。「後期高齢者医療制度」の廃止を望みます。高齢者が望んでいない制度ですから。高い保険料が払えず、滞納している人が増えています。患者の声が政治に届けられるような医療をしていきたいと考えます。

趣味、ストレス解消法は？

趣味はサッカーの観戦。今回モンテディオ山形がJ1に残ることができてうれしい。またもうひとつの趣味は温泉です。温泉でリラックスするのが日課になっています。

愚痴を言わない、何があっても動じない。当院の内科部長、医局長でもあり、長く当院の医療活動を支えています。今後ともよろしくお願いします。



病棟カンファレンス

至誠堂総合ケアセンター 2010.3.1 オープン予定

いつまでも住みなれた地域で、元気に安心して暮らしたい
地域の高齢化を支える施設目指して

当法人で運営、2010年3月1日オープン予定の「至誠堂総合ケアセンター」の工事が着々と進んでいます。場所は、至誠堂総合病院を北に進み、旅籠町に位置します。

それぞれの機能をいかした複合施設

今度の施設の大きな特徴は2点です。1つには介護療養型老人保健施設、通所リハビリテーション、高齢者専用賃貸住宅（介護付）、在宅療養支援診療所、訪問看護・訪問リハビリ、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターなどの複合施設であるということ、2つには、介護職員がいて、サービスを施設のなかで提供するという「適高齢者専用賃貸住宅」（特定施設入居者生活介護付き）であるということです。

療養病棟転換型の介護療養型老人保健施設

これに連動し、本院、至誠堂総合病院では病棟再編を行い、回復期リハビリ病棟を60床立ち上げる予定です。

老健施設は「木の実」29床（3つのユニットを持ちます。）高専賃住宅は「グランドホーム はたごまち」は19戸、定員20人です。老健施設での通所リハビリは60名となる予定です。



至誠堂総合ケアセンター 完成予想図

入居受付開始

12月1日から12月30日まで「グランドホーム はたごまち」の入居第一次申し込みの受け付けを行いました。

地域に密着した、一人ひとりにあったケアを提供できるようスタッフが一丸となり、開設に向け、奮闘しています。



開設準備室
左から 阿部、松木、鎌上



高橋静子看護部長

高橋 静子 看護部長に聞く

昨年6月より看護部長に就任。これからの抱負をインタビューしました。

当院の看護、アピールしたいことは？

当院の地域での役割を認識した看護をおこないたいということです。

急性期の大きな病院での治療を終え、すぐに自宅にはもどれない患者さんはたくさんいます。もちろん当院には急性期の患者さんはいますが、大多数は慢性期的な疾患を抱えています。当院でリハビリや療養を行い、退院への調整を計り、安心して地域に帰れるようにしていくということが求められています。

当院がそういった地域での役割を果たし、看護師が重要な役割を担っているということを認識し、患者さんや家族に信頼される看護集団の育成のためにがんばりたいと考えています。

普段の看護に自信を持って

現在来春を目指し、自分たちの働く環境をアピールするために動画「きらりムービー」を作ろうとしています。普段行っている看護に自信をもち、初心にもどり、地味ではあるが、やりがいがあることを他の人達にもアピールできるようにしたいと考えています。

元来、楽天的で今までの人生、あまり悩まなかった。しかし、今回の看護部長を引き受けるにあたっては相当悩み、責任の重さをずっと感じました。

あくまでも明るく、今のままの姿勢で、今後ともよろしく願います。



病棟、外来看護師長たちと

我が街 桜町・木の実町商店街 ⑦



そば処「いなり食堂木の实町支店」

山形市木の实町9-9 TEL 023-622-5737

11:00~14:30 17:30~20:00



◇太田修弘さんに聞く

戦前からの店舗で、二代目が運営。当店の暖簾の由来は、先代が現在の七日町シネマ旭と元映画館銀映の間にあった「いなり食堂総本店」に丁稚奉公し、暖簾分けしていただきました。

豊烈神社入り口の向かい側に位置し、椅子席とカウンター席で家庭的な雰囲気。

二目酔いの翌日は、気分がスッキリになる「みぞれそば」。ヘルシーで女性に人気のある「いなりそば」。栄養満点の「鍋焼うどん」。「カレーそば」はピリッと辛く、身体が温まります。暑い日は「冷やし納豆そば」。「中華そば」は、山形米粉でつくったもちゆきちから麺、さっぱりした思い出の醤油味です。ぜひ、来てけらっしゃい。



日本医療機能評価機構認定施設
病院機能評価 Ver.5

至誠堂総合病院

地域医療連携室

山形市桜町7-44

023-622-7551

<http://www.shiseido-hp.jp>

renkeisitu@shiseido-hp.jp

発行責任者 至誠堂総合病院副院長

伊藤 英三

編集 地域医療連携室

編集後記

小学生の頃、図書室で読んだスウェーデンの児童文学「やかまし村の春夏秋冬」(リンドグレーン著)をよく思い出す。(K)